

2006年11月30日：国土交通大臣および東京都知事あて
「東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道高架化を求める要望書」

東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道高架化を求める要望書

昨年3月の東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の踏切事故により、尊い人命が奪われた。

事故後、国、東京都、足立区及び東武鉄道株式会社は協力して、第37号踏切北側に歩道橋の設置などの緊急対策を講じた。この緊急対策により、高齢者やベビーカー利用者など安全性や利便性の向上が図られたのは確かであるが、依然として多くの歩行者、自転車が踏切を横断している状況に変わりはない。

「開かずの踏切」による事故の危険性と地域の分断を解消するには、抜本対策である鉄道高架化早期実現が不可欠である。

地域住民、足立区及び足立区議会の3者により昨年結成した「竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会」は本年9月、第二回定期大会を開催し、竹ノ塚駅付近の鉄道高架化の実現まで、協議会を中心に足立区の総力を結集して、粘り強く活動していくことを宣言した。

このたび、立体化に向け昨年度から実施している調査の成果に基づき、検討会での議論を経て、区は、竹ノ塚駅付近について、鉄道立体化が、技術的に可能であるとともにまちづくりの面からも最適であると判断し、「連続立体交差事業の新規着工準備採択」の要望書を国土交通省へ提出したところである。

しかしながら、連続立体交差事業はこれまで都道府県が実施主体となってきたことから明らかのように、多額の経費が必要であり、区が施行者となって連続立体交差事業を実施するためには、国及び東京都からの最大限の財政的支援がなければ実現は困難である。

よって、足立区議会は政府（東京都）に対し、区民生活の安全と交通の安全確保及び渋滞解消のために、当該地区の鉄道高架化早期実現に向けて、連続立体交差事業の新規着工準備箇所として採択すること並びに財政面及び技術面の支援について強く求めるものである。

平成18年11月30日

足立区議会議長 しのはら 守宏

国土交通大臣 冬柴 鐵三 様
（東京都知事 石原慎太郎 様）